第９回　理事会

日　時：令和４年１月19日（水）９：00～12：00

場　所：本学会事務局（Web会議併用）

出席者：長田会長（議長），伊藤副会長，清水副会長，
末永常務理事，秋山，池見，稲垣，太田，大谷，
大沼，小俣，北田，佐々木，竹村，富岡，西山，
長谷川（淳），長谷川（信），林，舩山，升元，
和田各理事
野村，齋藤各監事

陪席者：熊谷（事務局）

欠席者：奥村，徳永，三好各理事
（理事25名中22名出席（過半数）により理事会は成立）

議事内容：

1. 前回議事録の確認
・令和３年12月23日開催の第８回理事会の議事録案について承認した．

2. 審議事項

１）会員状況の確認
・事務局長から１月19日時点の会員状況について説明があり，１名の会員の入会を承認した．
・正会員1,837名，学生会員46名，名誉会員54名となり，総数は1,937名であることを確認した．
・３月末退会予定者の中に永年会員表彰を受けた方が含まれる件に関連して，基本的に永年会員の方には退会頂かないことが望ましいとのコメントがあった．永年会員表彰を受けた方から退会に際し，学会誌の充実を要望するコメントがあったことが紹介された．
・ご逝去された堀　義直名誉会員については追悼文を掲載することとした．

２）委員の新任について
・編集委員会の新委員長，２名の新任の委員，応用地質学教育普及委員会の１名の新任の委員について承認した．

３）バーチャル空間「oVice」の単発契約について
・和田理事より，標記の説明があった．審議の結果，契約を実施することについて承認した．
・oViceは，現在学会が契約しているZoomでは実現できない機能を有していることが考えられる．例えば，研究発表会後の懇親会でも利用できるのではないかといった意見や，ポスターセッションで利用できると良いといった意見があり，ダイバーシティ推進特別委員会での試用を通じて，幅広い使用用途を検討することとなった．またこれに関連し，来年度予算に「オンライン推進化経費（仮称）」を組み込むことを検討することとした．

４）名誉会員・永年会員・シニア会員の制度・会費見直しについて
・常務理事より，議論の結果，会費を見直していく作業と同時に，会員数を増加させるための学会の施策を検討することとなった．対応方策として，学会からの退会を踏みとどまる施策（メリット）やシニア会員に望まれる会費等に関してアンケートを実施し，将来の会員数・会費収入を予測するシミュレーションを行った上で，適切な制度としていくこととなった．
・稲垣理事より，技術士会の例として，入会１年目は会費を無料としていること，２年目以降は会費が発生するにも関わらず９割は残留すること，30代・40代は若手会費，50・60代はコア層ということで正規の会費，70代以降はシニア会費を設定していること，これらの施策を実行する前には会員にアンケートを取り，収支のシミュレーションを行った上で施策を決定したことの情報提供があった．
・小俣理事より，将来構想検討特別委員会においてシニア活躍の場を検討しており，本件と関連させながら実施していく旨コメントがあった．

3. 本部からの報告事項

１）収支状況について
・事務局長より，令和３年度12月の本部収支予算について説明がなされた．12月単月では赤字決算となること，通期で見た場合には黒字と予想される状況が確認された．
・事務局長より，支部での収支状況を定期的に確認することを目的に，２か月または四半期ごとに各支部においてエクセルで作成した仕訳帳（現金・預金）を用いて月ごとの収支状況を作成し，提出するよう依頼があった．これに関連して，支部の会計担当者を対象とした説明会を開催することとなった．仕訳帳については，記入例を入れた方が良いというコメントがあった．

２）「応用地質」第63巻（令和４年度）掲載予定について
・担当理事より，特集号のテーマ，研究部会だより・支部だよりの分担について確認された．現在掲載準備段階の論文・報告の件数について確認がなされた．

３）令和4年度総会・シンポジウムについて
・担当理事より，開催日時・場所の説明があった．
・舩山理事より，シンポジウムのプログラムについて説明があった．パネルディスカッションでは，予定時間が35分と短いため，論点集約を工夫した方が良いとのコメントが出された．
・例年シンポジウムの予稿集はゴールデンウィーク前後または５月中の締め切りとしていること，形式としてパワーポイントの発表資料をそのまま資料とする場合や論文形式とする場合があることが紹介され

た.

・シンポジウムのテーマ「気候変動対策と応用地質」は他学会にも関連する広範なテーマであることや，今回のプログラムには地熱に関する話題提供が多く予定されていることから，応用理学もしくは工学とつながる地球科学の関連学会(日本地下水学会，物理探査学会，日本地すべり学会)，ならびに日本地熱学会からの後援を得ることを検討することとなった.

4)令和4年度研究発表会について

・担当理事より，開催期日・会場について確認された.また，特別セッション提案の募集があることが紹介された.

5)JABEE地球・資源分野運営委員会の運営見直し提案への回答について

・常務理事より，標記の説明があり，構成4学会(日本地下水学会，資源・素材学会，日本地質学会，日本応用地質学会)が共同で運営に携わっていくことが確認された.

・当面，事務局は資源・素材学会事務局とするものの，将来的には構成4学会で共同の事務局を置く可能性も考えられ，当学会ではこれまで応用地質学教育普及委員会が窓口を担当していたものの，同委員会が事務局を担当すると負担が大きいこと，複数の学会で重複して担当している方がおり，一部に負担がかかっていることのコメントが出された.

6)ダム地質カードカレンダー関連の今後の運用について

・担当理事より，ダム地質カードを制作するには多くの労力・時間を要し，カレンダーを新たに制作するための12ダムのカードを短期に制作することは困難であるとの意見が出された．また，ダム地質カードについては，アウトリーチを目的とした書籍の出版も検討していることが紹介された.

・ダム地質カードカレンダーに拘らず，カレンダーの制作を検討するのが良いといった意見や，ダム地質カードカレンダーは好評であったことから，３～５年程度に一回制作することを検討してほしいといった意見が出された.

7)フィールドワークにおける性暴力・セクシュアルハラスメントに関する実態調査アンケートについて

・常務理事より，アンケート内容の説明がなされた.

8)日本学術会議：今後の大型研究計画について

・常務理事より説明があり，内容について確認された.大気に関する研究など，非常に大きなプロジェクトを持った学問分野でなければ提案が難しいのではないかといった意見が出された.

9)他学協会からの依頼

・常務理事より，日本原子力研究開発機構(JAEA)より申請された「応用地質」論文図面の転載について，許可されたことが報告された.

・常務理事より，日本工学会「第3回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム」についての協賛依頼を承諾したことが報告された.

・常務理事より，原子力発電環境整備機構(NUMO)より申請された北海道土木地質データ集作成委員会編「北海道地方土木地質図および同解説書」(日本応用地質学会 北海道支部 協力)，および岡(1997)「北海道のネオテクトニクス区分と地震問題」(日本応用地質学会研究発表会講演論文集)の図面の転載について，許可されたことが報告された.「北海道地方土木地質図および同解説書」については，著者となっている「北海道土木地質データ集作成委員会」に確認を取る必要があるとの指摘があり，北海道支部に確認の結果，北海道支部において同意を得ることとなった．また,「北海道地方土木地質図および同解説書」といった基礎的なデータは今後も活用の機会が見込まれることから，販売促進を検討してはどうかといった意見が出された.

4. 各委員会・支部・研究部会・小委員会からの報告事項

1)総務委員会

・常務理事より，１月17日開催の委員会議事録が提出され，現在総務委員会内協議事項として，CPD，会員種別・会費に関するワーキンググループの検討・協議，支部運営規程の改定，代議員の定数が挙げられた.

2)事業企画委員会

・担当理事より，12月９日開催の委員会議事録が提出され，内容の説明があった.

3)応用地質学教育普及委員会

・12月27日開催の委員会議事録が提出され，清水副会長より，議事のトピックとして，小山ダムにおける第８回入門講座開催の検討内容が紹介された.

4)将来構想検討特別委員会

・１月６日開催の委員会議事録案が提出され，小俣理事より，特別委員会で検討を行っている支部への講習会に関するアンケートに関連し，支部の全会員を対象としたイベントについては，ニューズリストやFacebook等を利用したアナウンスを検討してほしいとの要請があった.

5. その他

・事務局長より，本部予算に組み込みたい案件があれば，１月26日までに連絡頂くよう要請があった.

・常務理事から，令和４年度総会資料に添付する「各委員会等の構成」および「各委員会等の活動状況」について各委員会・研究部会・特別委員会・支部で確認し，２月18日までに提出頂きたいとの要請があった.